

子ども虐待に苦しむ親子へ  
医療の現場から光を

BEAMS

BEAMSは医療機関向けの虐待対応プログラムです。  
英単語のbeamには《光の束》という基本的な意味の他に、《屋根の梁》という意味と、  
《心からの笑顔》という意味があります。

複数形であるBEAMSには、《皆で虐待の問題に光をあて》、《崩れゆく家庭を支え》、  
《子ども本来の笑顔を取り戻してほしい》という意味を込めています。

BEAMSプログラムの一部は成育医療センターの成育科学研究  
(成育医療研究開発費24-12 児童虐待の予防および医学的アセスメントに関する総合的研究)  
として開発されております。

また、その実施はRISTEX(社会技術研究開発センター)協賛のもと、  
日本子ども虐待医学研究会の事業として行われています。

お問い合わせ先 ● 日本子ども虐待医学研究会事務局 info@beams.childfirst.or.jp (担当: 大森/溝口)

BEAMS

虐待対応プログラム

医療機関対象

# 子ども虐待の解決を目指して 我々に出来ること。

被虐待児を早期に発見し、地域へつなげるとともに適切な医学的診断を行うことは、我々に課せられた極めて重要な使命です。

BEAMSプログラムは、3ステージで構成される、医療機関での虐待対応の啓発・教育・ピアレビューのプログラムです。各々の立場で求められている、子ども虐待に対応するための基礎知識やスキルを身につけることが可能です。

## BEAMS

### すべての人が大切なキープレーヤー

『ChildFirst』、この気持ちをつなぐ連携プレーそれぞれの立場で、それぞれの役割を。



#### Stage 1

すべての医療関係者



#### Stage 2

CPTメンバー  
小児科医



#### Stage 3

CPTリーダー医師  
虐待専門医師

BEAMSは、医療機関の虐待対応の在り方を正しく理解していただくためのプログラムであると同時に、それを広げ共有していくためのムーブメントです。ごく一部の講師だけが講義を行うのではなく、プログラムを終了した受講者の中から、次のトレーナー候補を募り、トレーナー認定を行い質の担保を図るとともに、少しずつ仲間を広げ、全国に広げていきたいと考えています。

## Stage 1: BEAMS for All Medical Personnel

このStageは受講者が、虐待の早期発見と通告の意義を理解し、医療機関での虐待のSentinel（見張り番）として、適切な行動がとれるようになることが目標です。

プログラムは講義形式で、最短の構成を45分に設定しています。ランチを取りながら和やかな雰囲気で行う形式など、地域や各施設のニーズに応じて柔軟に対応することで、一人でも多くの医療関係者に子ども虐待について、考えるきっかけになることを目指します。

## Stage 2: BEAMS for Pediatrician and CPT members

このStageは、受講者が被虐待児の安全を担保し地域へ繋げ、医学診断をネットワークに的確に提供出来るようになることが目標です。小児科医やCPTのメンバー医師が対象ですが、虐待につきより深く学びたいその他の職員も受講可能です。

プログラムは講義形式で、最短の構成を90分に設定しています。各施設のCPTのスキルアップのために、基本スタイルは講師が依頼を受けた施設に出張する形を想定していますが、地域のニーズに応じて柔軟に対応が可能です。全ての二次医療圏での虐待対応能力のボトムアップがなされていくことを目指します。

## Stage 3: BEAMS for Child Abuse Medical Leaders

このStageは受講者が、虐待対応の医療的リーダーシップを発揮出来るようになることが目標です。Step1・2の講義を修了したCPTのリーダー医師や、子ども虐待に専門性の高い医師（子ども虐待専門医）を目指す医師を対象にしています。

多忙な医師でも可能な限り都合をつけやすいように、土日を利用した1日半のプログラムとなっています。座学を受動的に聴講するのではなく、用意したロールプレイや討論の場で能動的に参加し、専門性の高い医師として地域に貢献するために求められる役割につき理解していただくことを目指します。

すべてのStageを終了した医師には、個々の事例への対応にとどまらず、地域の虐待施策に関し、医療面でのリーダーシップを発揮することが望まれます。その際に、研修で得た専門性の高い医師同士の繋がりが、貴重な財産になるでしょう。

BEAMSの詳細についてはHPへ <http://beams.childfirst.or.jp/>